



今月の内容

- 02 まちの話題
- 04 **特集** 維新の影の立役者
都城県参事 桂 久武
- 12 安心して出産できるまち・都城
- 14 島津発祥まつり
- 15 都城歴史資料館企画展 西南戦争
- 16 祝吉地区公民館が完成！
- 17 児童・女性への虐待・暴力をなくそう！
- 18 ALTの活動紹介
- 19 民俗芸能を後世へ／秋の全国火災予防週間
- 20 人の風景
- 22 INFORMATION (市からのお知らせ)
- 30 行こうよ！ まるまる！／図書館だより
- 31 美術館情報／施設紹介／
歴史探訪／伝承館だより
- 32 盆地生まれの元気レシピ！
- 33 国際交流員のひとりごと／わけもん通信／
今月のお便り
- 34 みやこんじょ盛り上げ隊！／今月のプレゼント
- 35 NPO通信／安全・安心情報／
番組紹介／現住人口／編集後記



才能あふれる作品が一堂に

都城市美術展を9月15日から30日の期間、市立美術館で開催しました。平面と立体の2部門で入選した294点の作品を展示。9月22日の表彰式では、入賞者24人を表彰しました。版画とコラージュの技法を用いて弟を描いた作品「ガルガンチュアとパンタグリユエル」で、大賞を受賞した黒木希和さん(愛知県芸大1年・本市出身)は「去年は高校生特別賞を受賞。3度目の挑戦となる今回は大賞を受賞でき、とてもうれしい」と喜びをかみしめていました。



思い出に残る国際交流

オーストラリアのバーペンガリー・ステイト・セカンダリー・カレッジ (BSSC) の生徒らが9月25日から28日、本市に滞在しました。滞在中は、書道や茶道など日本文化を体験。姫城中学校の生徒との交流を深めながら巻き寿司作りにも挑戦しました。BSSCの生徒らは、悪戦苦闘しながらも何度も味見しては、楽しそうに巻き寿司を作りました。江口華花さん(姫城中3年)は「英語を話しながらたくさん交流できて楽しかった。別れがとても寂しい。」と話していました。

まちかどインタビュー

こだわりのスイーツ店が まちなかにオープン!

低糖質の焼き菓子やケーキを販売する店を10月2日、チャレンジショップにオープンしました。取り扱うスイーツは、通常のものとは比べ、糖質を5分の1から10分の1までカット。糖質制限したい人が、安心して食べられる手作りスイーツを準備しています。



BLUE OWL (中町)
左 菊池 彩香さん
右 東 春菜さん

今月の表紙

与えられたナースキャップで、決意を新たに

都城看護専門学校の戴帽式が10月13日、総合文化ホールで開催されました。病院実習の前に看護への意識を高める本儀式。キャップを与えられた1年生は、実習に向けての決意を新たにしていました。





世相を反映した
かかしが勢ぞろい！

山田町の秋の恒例イベント「かかしフェスティバル」が9月22日から10月6日の期間、一堂ヶ丘公園で開催されました。市内外から出展された41体の作品を展示。家族連れや近くの幼稚園の園児らは、話題の人や出来事など世相を映したユニークなかかしたちを、思い思いに楽しんでいました。



元日本代表選手が教える
サッカーの楽しさ

都城きりしま支援学校で9月21日、FC東京サッカースクールが開催されました。サッカーの楽しさや魅力を広める同企画。元サッカー日本代表の石川直宏さんなど、FC東京のコーチ陣から指導を受けた児童・生徒らは、あふれんばかりの笑顔でボールを追い掛けていました。



地域で取り組む
世代間交流が高く評価

さんさんクラブ山野原が9月26日、池田市長に全国老人クラブ連合会会長表彰「活動賞」の受賞を報告しました。同クラブは、昔の遊びを通じた地域の子どもたちとの交流活動と、農業体験やそば打ち体験などを通じた沖水小学校児童との世代間交流を高く評価され、同賞を受賞しました。



都城を旅した山頭火に
思いを馳せる

「都城に山頭火の句碑を建立する会」が9月25日、攝護寺(牟田町)境内で「すてされない 荷物のおもさ まへうしろ」と刻まれた句碑の除幕式を、天竜幼稚園の園児らと行いました。山頭火の日記に、本寺近くの千日通りを訪れたことが記されていたことから、この地に建立しました。



女王を決める
華麗な熱き戦い

霧島酒造杯女流王将戦都城大会が10月13日、霧島創業記念館吉助で開催されました。里見香奈女流王将と加藤桃子奨励会初段による熱き戦いが繰り広げられたほか、関連イベントとしてプロ棋士による指導対局会も開催。またとない機会とあって、参加者らは次の一手を真剣に考えていました。



大空を舞う
渡り鳥の観察会

日本野鳥の会宮崎県支部主催のサシバ観察会が10月7日、金御岳公園で開催されました。毎年10月初旬から中旬にかけて、越冬のために北から南へ渡る中型のタカ「サシバ」。1万5千～2万羽が織りなす渡りを観察しようと、県内外から多くの愛鳥家らが詰め掛け、レンズをのぞき込んでいました。